

## 1, 不登校支援について

全国に比べ岡山市は不登校の出現率は低めではありますが、2018年の930人から2023年は1633人と増え続ける一方です。学校へ行けないことで苦しい思いをする子どもや親がいなくなるよう、教育現場、行政、民間事業者や地域社会が手を取り合っていく必要があります。

全国で増え続ける不登校や行き渋りに対応するため、日本共産党は5月23日不登校についての提言を発表しました。

### (1)不登校への理解と休息・回復の保障を

学校生活の中で違和感を抱え、傷つき、がまんのがまんと重ねたすえに登校できなくなった子の中には「学校に行けない自分は生きる価値がない」と自分を責め、医療支援を必要とする子もいます。不登校は子どもの「いのち」の問題です。

学校こそ不登校の子どもの様々な思いを受けとめる場になり、子どもの休息と回復を温かく見守り、子どもの安心を増やす場になること。それが公教育のかけがえのない役割だと考えます。

しかし実際には、行き渋り傾向の子どもをあの手この手で登校させることに重点が置かれ、子どもの気持ちを尊重する対応が少なくなっていると感じます。不登校は誰にでも起こり得ることで、問題行動ではないこと。不登校という休養が必要な場合もある。といったことを教育委員会のホームページできちんと明記している自治体もあり、こういった市の姿勢は、当事者や保護者に安心感を与えてくれます。不登校への理解や、休息、回復の重要性について市はどのように考えますか。

### (2)これまでの支援策の効果検証と実態調査について

総務省が不登校児童生徒やその保護者にアンケート調査を行い、23年7月に結果を公表しました。各支援の受け止め状況を把握・分析することで、政策効果の把握をし、総務大臣から文部科学大臣に意見を通知しました。

岡山市においても、この間様々な支援策をおこなってきましたが、当事者や保護者から声を聞き、効果の検証や見直しなどは行われてきたでしょうか。実績や内容、改善してきた点があればお示しください。

### (3)児童生徒支援教室の運用・人員体制について

一番初めにできたトラングル一宮は設置から33年にもなり、設置個所も増やし、不登校の児童生徒が利用できる公共施設があることは大変ありがたいと思います。学校へはなじめない子どもたちのよりどころとして今後さらに改善できる部分は変えていき、時代の変化に合う運営を求めます。

(ア) 児童がいる家庭の約8割が共働き、又はひとり親で就労してます。その中で、支援教室は子どもが通うには難しいといった声を聞いています。運営方法や通室までの流れはこれまで見

直しがされてきたでしょうか。通室時間の延長や、利用頻度、通室方法など柔軟に対応していただきたいです。ご所見をお示しください。

- (イ) 学校へ戻ることを促す言葉や、指導的な対応で、支援教室へも行けなくなってしまう子どもいるようです。不登校の子どもに関わる先生方には特に、教育機会確保法やその基本方針を理解し対応できるよう研修の充実も必要ではないでしょうか。現在の研修内容や受講状況をお示しください。
- (ウ) 支援教室で子どもに関わる先生には、不登校の経験がある方や、専門的な知識、経験がある民間のかたも積極的に配置していただきたいです。ご所見をお示しください。

#### (4) 保護者への必要な支援の把握を

民間が24年8月に行ったアンケート調査によると、不登校の子を持つ保護者の5人に1人が離職をしています。また、「死にたいと感じた」という回答は9.1%あり、深刻な状況が伺えます。こういったことから、親同士が悩みを語り合い支え合うことはもとより、職場での理解促進や、「不登校休業制度」、テレワーク、短時間勤務、転勤規制など育児と働き方の両立を行政が後押しすることも必要です。保護者への必要な支援を把握するため、まずは市として実態調査を行いませんか。

#### (5) フリースクール等を利用する家庭への経済的支援

フリースクールや訪問支援を実施する6つの事業者に独自アンケートをした結果、2024年3月末時点で、フリースクールに140名、訪問支援やリモート支援で89名が利用していました。いずれも、市内在住の児童生徒です。事業者からも、利用者への経済的支援を求める声がありました。学校へ行けなくても、民間施設において支援を受けながら、社会的自立に向けて努力する子どもたちの学びを支えていくことは、公の責任だと考えます。一定のガイドラインを設けて補助を行う自治体も増えてきています。岡山市での補助について、これまでの検討状況をお示しください。

## 2. 男性へのHPVワクチン接種について

女性の子宮頸がん予防として接種が進められているHPVワクチンですが、男性が接種することで女性への感染防止につながることや、男性特有のがんリスク低減の効果もあることから、東京都の一部の区や、一部の自治体では、独自に男性の接種へも助成を行っています。自費接種は高額になるため、私の周りでも、岡山市は男の子に助成してくれないの？という声がありました。以下お尋ねします。

- (1) 男性へのHPVワクチン接種の助成についてどのように考えますか。
- (2) 女性へのHPVワクチン接種は以前重篤な副反応により一時助成は停止されていましたが、現在の岡山市の接種率や副反応の状況についてお示しください。
- (3) メリットだけでなくリスクがあることも事実なので、そのことについてはどのように周知を考えていますか。